

ふくしおあさか

～出かける つなぐ 創る～



親戚は今何とか獣たちと共に存しているが、やさしい父親に免じて、この距離を保つてほしいと願うばかりだ。

庭先の柿の木に熊の爪痕と糞が見つかり、市役所農林課がハチミツを仕掛けたが、熊は出没せず糞は撤収。鹿が毎晩カメラに写り、外来種の大きな狸も。

広島市といつても山裾の田舎に住む親戚の畠では被害が深刻だ。ネット柵にもかかわらず、昨年は翌日収穫予定だったカボチャ34個が、夜のうちにイノシシの「運動会」で根こそぎ葉っぱまで食い尽くされた。今年は、ソラマメが収穫時期と思ったら全て猿に盗難される被害に遭った。「悔しー!!」と高齢の父親にいうと、「あれらも生きていいなきやいけんけえ。植えた半分食べられたうえけえ」といつもどおりややこしい。

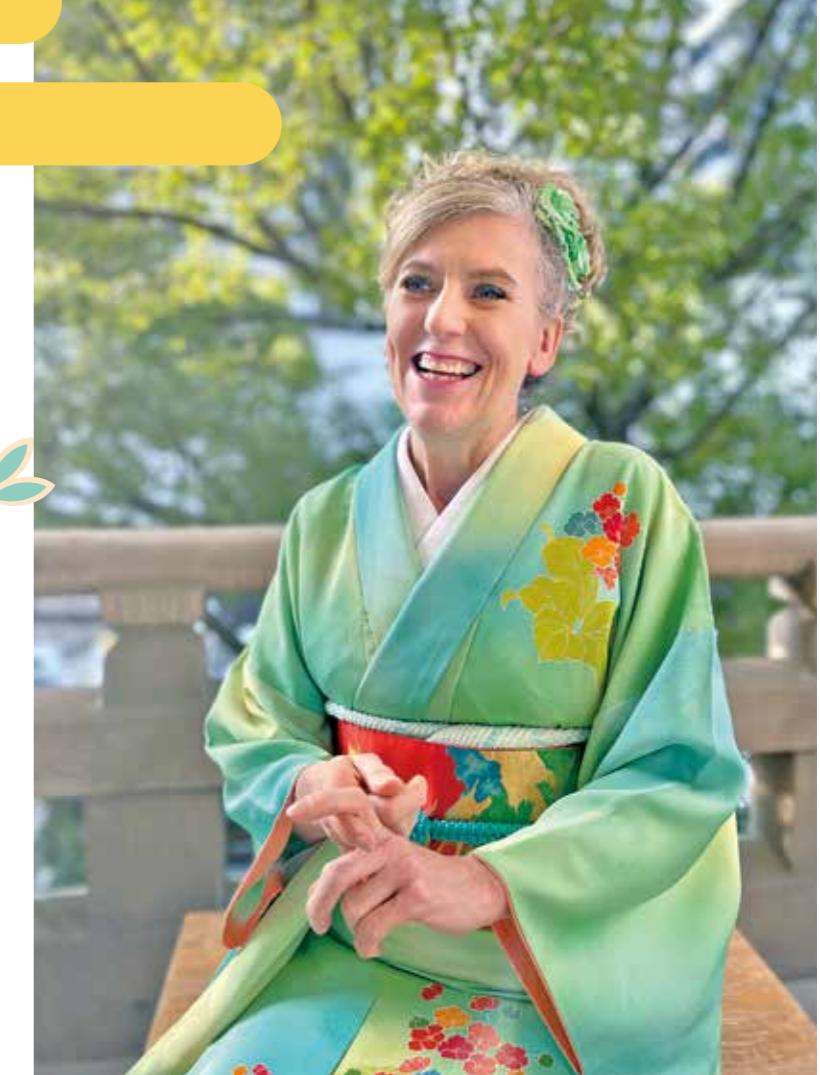
福島市といつても山裾の田舎に住む親戚の畠では被害が深刻だ。ネット柵にもかかわらず、昨年は翌日収穫予定だったカボチャ34個が、夜のうちにイノシシの「運動会」で根こそぎ葉っぱまで食い尽くされた。今年は、ソラマメが収穫時期と思ったら全て猿に盗難される被害に遭った。「悔しー!!」と高齢の父親にいうと、「あれらも生きていいなきやいけんけえ。植えた半分食べられたうえけえ」といつもどおりややこしい。

焦点

Fukushi Osaka Column

飛躍

古典を現代へ、世界へ。
日本文化を楽しく届ける
バイリンガル落語家の軌跡。



4月13日から10月13日まで夢洲で開催された大阪・関西万博。閉幕から数ヶ月が経った現在もその熱は健在です。

今回は、大阪・関西万博「OSAKAから地域共生の未来をつくる」プロジェクトにて司会を務めたダイアン吉日さんにインタビュー。

バイリンガル落語家として世界で活躍されるダイアンさんに、日本との出会いやバイリンガル落語の魅力、これから抱負について聞きました。

なダイアンさん。コロナ禍以降、人との会話が減っていることもあり、今後は誰もが参加でき、定期的に集えるコミュニケーションイベントを開催することで、会える楽しみを作っていました。「人それぞれの幸せのツールボックス(道具箱)が必要。自分にとってそれは何か、みんなに気づいてほしい」とダイアンさんは話します。

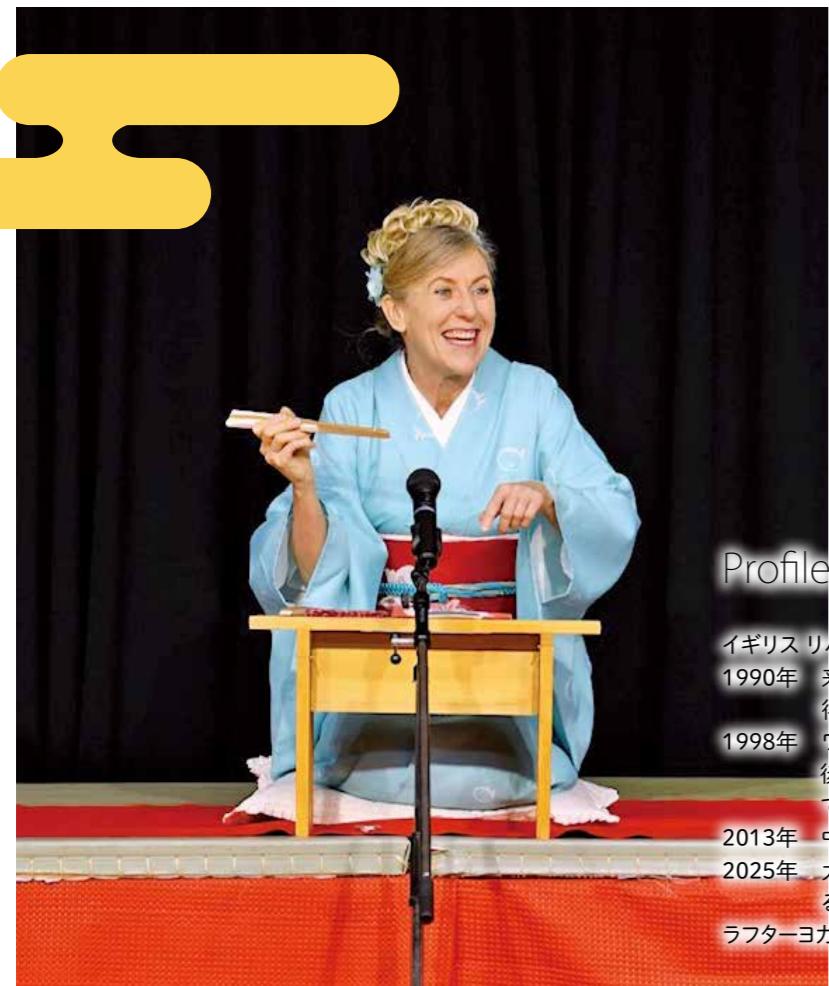
夢を諦めないで

落語だけでなく、「旅行の話」、「各国の文化について」、「外国语の勉強方法」などをテーマに、60カ国以上の国々を回った経験を踏まえた講演会も行っています。重く受け止められがちな話題も、笑いを交えながら話すことで、楽しく聞いてもらえるように意識しています。

講演会のひとつには、「夢を諦めないことの大切さ」をテーマにしたものがあります。学生時代、外国语を学ぶ中で教師から「あなたには無理だ」といわれたこともあります。重く受け止められがちな話題も、笑いを交えながら話すことで、楽しく聞いてもらえるように意識しています。

万博の司会では、失敗しても乗り越えられるから諦めないでほしいという思いをもって、バックステージでの関わりを大切にし、発表者にエールを送っていました。「さまざまな立場の人々がみんなで頑張ったことがうれしかった。みんなが頑張っていたから自分も頑張ることができた」とダイアンさんは振り返ります。

人と会って生まれるつながりが好き



バイリンガル落語家 ダイアン吉日

イギリス リバプール出身。
1990年 来日。華道(三先流師範取得)、茶道(表千家師範取得)、着付けをはじめとした日本文化に広く精通する。
1998年 ワッハ上方(大阪)にて落語の初舞台を踏む。その後、アメリカやイギリス、インドなど30カ国以上の国々で落語を披露する。
2013年 中曾根康弘賞を受賞。
2025年 大阪・関西万博「OSAKAから地域共生の未来をつくる」プロジェクトで司会を務めた。
ラフターヨガアンバサダーやバレーンアーティストとしても活躍中。



抽選で1名様 直筆サイン色紙プレゼント!

右記の2次元コードから応募フォームにそってご回答ください。
ご応募お待ちしております。
※当選者の発表はプレゼントの発送をもってかえさせていただきます。
※応募者の個人情報はプレゼントの発送のみに使用します。
※重複応募・必要事項の入力漏れは無効となりますのでご注意ください。

読者プレゼント

応募締切
2月13日(金)



落語との出会い

バックパッカーとして世界中を旅していたダイアンさん。旅の途中でできた友人から、日本への旅行を強く勧められたことがきっかけで日本を訪りました。幼少期から物を作ることや絵を描くことが好きだったこともあり、陶芸や華道、茶道などの日本文化を学んでいます。

落語との出会いは、英語落語の先駆者として知られる2代目・桂枝雀さんのお茶子を経験したこと。枝雀さんの落語を見て「扇子と手拭いだけで100年前の日本の風景が想像できました」と感動したと話します。その後もお茶子を続けるうちに、落語を披露する機会があり、演じることの楽しさに気がつきました。

ダイアンさんの落語は、日本語と英語を組みあわせた「バイリンガル落語」。古典落語では海外の方に伝わりにくい描写もあるため、ダイアンさん流にアレンジをします。古典落語の「まんじゅうわい」という演目では、海外の方はまんじゅうが想像しにくいため、「すこしこわい」にアレンジして演じます。想像しやすいダイアンさんの落語は、日本の子どもたちからも分かりやすい人気です。



大阪・関西万博「OSAKAから地域共生の未来をつくる」プロジェクトのようす

方はまんじゅうが想像しにくいため、「すこしこわい」にアレンジして演じます。想像しやすいダイアンさんの落語は、日本の子どもたちからも分かりやすい人気です。

英語が公用語ではない国からも、公演の依頼があります。観客からは、日本の文化と英語をどちらも勉強できる「によろこぶ声」が届きます。「笑って楽しめ勉強することができたら、記憶にも残りやすい。それがバイリンガル落語の魅力」とダイアンさんは語ります。